

第6学年 道徳指導案

日時 平成23年9月30日(金) 5校時
児童 男子21名 女子20名 計41名
指導者 石井佳織

- 1 主題名 精いっぱい生きる [3-(1) 生命の尊重]
- 2 資料名 手足のないチアリーダー (主婦と生活社 手足のないチアリーダー)

3 主題について

(1) 価値について

学習指導要領第3章道徳の第5学年及び第6学年の内容3「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」の(1)に「生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する」とある。これは、中学年の「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にす」及び、中学校の「生命の尊さを理解し、かがえのない自他の生命を尊重する」と深くかかわっている。生命のかげがえのなさを自覚し、生きることの尊さ、共に生きることのすばらしさを考えることで、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする児童を育てようとする内容項目である。

生命は様々な人との支え合いの中ではぐくまれており、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。そのために、家族から受け継いだかがえのない生命を精いっぱい輝かせて生きることが、生命を大切にすることにつながることを実感させる必要がある。そこで、本主題をもとに、生命を尊重することの意味を問うていくことが大切であると考えた。

(2) 児童について

学級の児童は、大変明るく素直で楽しんで学校生活を送っている。最高学年になり、これまで「DO MY BEST!」を学年のテーマとして掲げ、自分や友達、家族、学校等のために最善を尽くすことを目標に様々な活動に取り組んできた。学校のリーダーとして下級生とのかかわりや行事等を通して、一人一人が活躍の場を増やしている。生命尊重を扱った1時間目では、多くの児童が限りある生命の尊さや、死の重さ、生きる喜びを感じとることができた。しかし、「生命が大切だ」と分かっているにもかかわらず、テレビやゲーム等の影響から生や死を軽んじている面が見られたり、生命があって当たり前と思っていたり、自分の生命のかげがえのなさを実感するに至っていない。

そこで、このような児童に、与えられた生命を精いっぱい生き抜く大切さと、支えてくれている人への感謝の念を実感させることで、かがえのない生命を尊ぶ精神を養うことができると考えた。

(3) 資料について

この資料は、「先天性四肢欠損症」という障がいをもって生まれた女の子の実話である。主人公の有美さんは、家族や友達に支えられながら、できることは何でもやるという信念のもと学校生活を送り、様々なことに挑戦する。しかし、周りの支えに甘え、自分の意思ばかり通していたために孤立してしまい、自分の体のことについて悩み、死まで考えるようになってしまう。そんな挫折の中で、母や仲間に対する申し訳ない気持ちや感謝の気持ちが芽生え、さらにコーチから言われた言葉をきっかけに、自分には自分の生きる道があることを実感する。苦難を乗り越え、自分の生命が活かされていることを知り、自分にできることを精いっぱいやりながら生命を輝かせている主人公の生き方から、価値に迫ることのできる教材である。

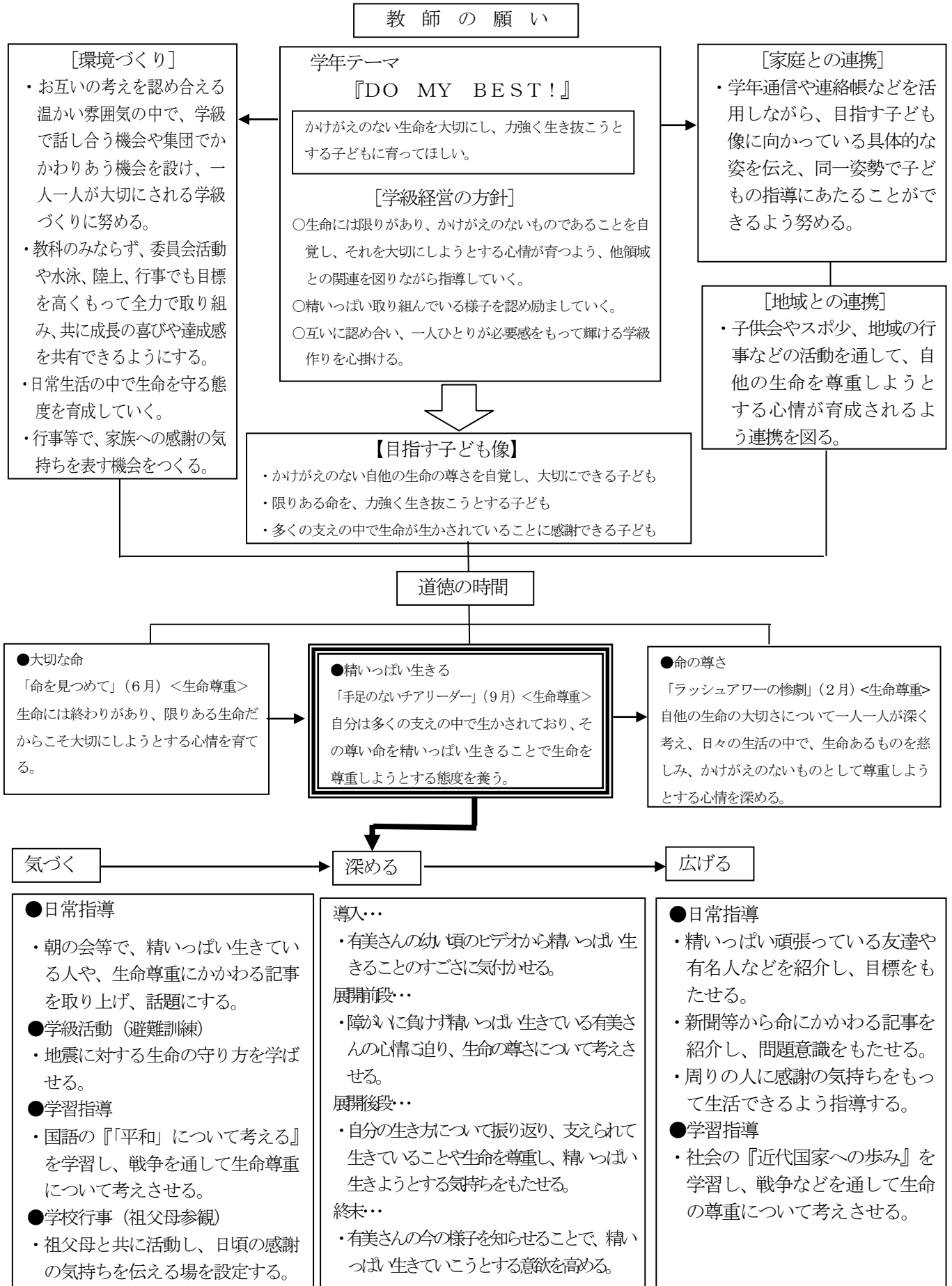
(4) 指導について

本時の授業では、主人公の心情や行動に着目させ、自分のこれまでの生活経験と重ね合わせながら、ねらいにかかわる価値について考えていけるよう、次の手立てを講じていく。

- ・導入では、主人公の幼いころのビデオを見せ、精いっぱい生きるすごさを感じさせることで、価値への方向付けを図りたい。
- ・展開前段では、懸命に生きつつも自分の体について悩み、「死」をも考えた主人公が、自分の生きる道を見出し、前向きに生きようとする姿に共感させたい。
- ・書く活動を取り入れることで、自己の内面とじっくり向き合い、またグループ学習を取り入れることでより深く生命の尊さをとらえられるように場の設定を工夫したい。
- ・展開後段では、「精いっぱい生きることのよさ」自己のよりよい生き方の実践への意欲を高めていきたい。

4 指導の構想

「生きていることの喜びを感じ、命あるものを大切にしようとする心」を育てる学級における指導の構想



(1) ねらい

自分は多くの支えの中で生かされており、その尊い命を精いっぱい生きることで、生命を尊重しようとする態度を養う。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点
導入 5分	1 ビデオを見て、感想を話す。 ○この子を見て、どんなことを感じましたか。	<ul style="list-style-type: none">・重い障がいのをりこえて頑張っている。・前向きに頑張っている。・手足がないのに前向きに頑張っていてすごい。	<ul style="list-style-type: none">・有美さんの幼い頃の映像を見せ、懸命に生きるすごさを感じさせ、価値への方向付けを図る。
展開 前段 25分	2 資料を読んで内容を確認する。 ○有美さんの気持ちを考えながら読みましょう。 3 主人公の気持ちについて考える。 ○色々なことができるようになったとき、有美さんはどんな気持ちだったでしょう。 ○有美さんは、どんな気持ちから、「もう死んでしまいたい。」と思ったのでしょうか。 ◎有美さんが、「精いっぱい生きよう。」と思えるようになったのは、なぜでしょう。	<ul style="list-style-type: none">・色々なことに挑戦して頑張ったよかったなという気持ち。・私だってやれば何だってできるんだという気持ち。・みんなと同じように何でもできて、うれしい気持ち。 ・こんな体じゃなかったらもっと友達とも遊べたのに。・どうして私だけこんな体に生まれてしまったのだろう。もうこんな体は嫌。・手足がないせいで、友達もいなくなってしまう。つらい。・もう生きていてもいいことなんてないかも。 ・お母さんにもらった命だから大切に生きようと思ったから。・私にできることを精いっぱいやろうと思えたから。・たった一度の人生なのだから、精いっぱい頑張ろうと思ったから。・自分の生きる道を見つけ一生懸命生きていこうと思ったから。	<ul style="list-style-type: none">・小学校生活の有美さんが何でもできるようになることで、今の自分に満足している気持ちに共感させる。・有美さんのみんなと同じように生活できる喜びに共感させる。・父や母の存在にもふれ、支えられていることに気付かせる。 ・友達とうまくいかなくなり、自分を責める気持ちに共感させる。 ・自分を受け入れることができずに悩み、死まで考えるようになった「私」の孤独感・絶望感を感じさせる。 ・書く活動を入れ、価値の内面化を図る。・グループ学習を取り入れ、友達と考えを交流することで様々な価値観に気付かせる。 ・自分を受け入れ、生きる道を見出ししていく気持ち

			<p>ちに共感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることを精いっぱいやることで生命を尊重しようとする気持ちに共感させる。
<p>展 開 後 段 10 分</p>	<p>4 これまでの自分の生活を振り返り、生命について話し合う。 ○精いっぱい生きることって、どうすることなのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親からもらった命を大切にしながら前向きに一生懸命生きること。 ・辛い事があっても諦めずに自分の人生を生きること。 ・自分にできることを精いっぱいやること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り、普段意識していなかった「精いっぱい生きる」ということについて考えを深めさせる。 ・生命を尊重するとは、生命を守るということだけではなく、生命を生かすことでもあることに気付かせる。
<p>終 末 5 分</p>	<p>5 主人公が出したCDを聞く。</p> <p>6 学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しいことがあっても、頑張っ て前向きに生きていこう。 ・有美さんのように精いっぱい生 きていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公がCDデビューを果 たしたことを伝える。 ・今日の学習を振り返って感 じたことを書く。

手足のないチアリーダー

水泳の写真

佐野 あみさん
先天性四肢欠損症

運動場での写真

なわとび 母
マラソン 父
水泳 父

がんばれば何でもできる！
皆と同じだ！
がんばってよかった！
あきらめなくてよかった！

もうこんな体はいや。死んでしまいたい。

- ・こんな体じゃなかったらもっと遊べたのに。
- ・どうして私だけこんな体なの。つらい。
- ・生きていてもいい事なんかない。

チアの写真

コーチ

仲間

精いっぱい生きていこう

- ・せっかく親からもらった命なのだから、大切にしよう。
- ・私にできることを精いっぱいやろう。
- ・たった一度の人生なのだから精いっぱい頑張ろう。
- ・自分の生きる道を見つけて一生懸命生きていこう。

笑顔の写真

かけがえのない命だからこそ精いっぱい生きる

6 資料分析

資料名 手足のないチアリーダー
(出典：主婦と生活社)

[ねらい] 自分は多くの支えの中で生かされており、その尊い命を精いっぱい生きることで、生命を尊重しようとする態度を養う。

